

### 3 1. マイタケ栽培試験

鳥海 晴夫

#### 〔目的〕

マイタケは、普通オガクズ培地を利用して空調施設で栽培されているが、香りや歯ざわりのよいきのこをつくるため、原木による栽培技術を確立する。

#### 〔方法〕

マイタケの原木栽培は、1991年4月にシイタケと同じ方法でコナラ原木90cmにオガクズ種菌を接種し、接種孔数を直径（cm単位で測定）の2倍、4倍、6倍区に分けた。管理は枕木に片方の木口をのせたカワラ伏せとし、7月と9月に反転させた。

P・P袋栽培は、コナラ原木25cmをオガクズ培地用のP・P袋に入れ、オートクレーブで1.2気圧120℃で70分間滅菌し、冷却後市販のオガクズ種菌をクリーンベンチ内で接種（1991年5月）した。原木の本数や形が菌糸の活着や伸長及び子実体の大きさに及ぼす影響について調査するため、原木を1本、2本、3本、1本半割、2本4分割の5区に分けた。

#### 〔結果〕

##### 1. 原木栽培試験（表-1、図-1）

1991年10月にはほだ付率を調査した。表面ほだ付率は6倍区が2倍区に比べ13%と若干高くなったものの、横断面は大差なく、ほだ付率が40%以下であることから、接種孔数を多くすることによってほだ付率を高めることには限界があると思われる。

1991～1992年に発生量調査を行ったが、ほとんどのほだ木がサルノコシカケ科の害菌に侵された。マイタケの場合、シイタケに比べて腐朽力が弱く、シイタケ栽培と同じ方法では子実体の発生は難しいと思われる。

##### 2. P・P袋栽培試験（表-2、図-2）

菌の活着は8割以上で、未活着のものはトリコデルマ菌等の雑菌の被害であった。原木滅菌の不完全や接種時の雑菌混入などが考えられるが、はっきりした原因は不明である。マイタケ菌は、原木とP・P袋の狭い隙間に沿って伸長するので、原木とP・P袋の空間は空気を抜いて出来るだけ狭くする必要がある。

発生量は、2本4分割区が多く4個あたりの子実体も大きかった。2本区や3本区は体積が大きく養分が豊富と思われるが、子実体が特に大きくなることはなかった。今後も発生量調査を継続していきたい。

表-1 マイタケ原木栽培ほだ付率(%)

試験区	表面			横断面(心材除く)			表面 × 横断面
	菌伸長	未伸長	雑菌	菌伸長	未伸長	雑菌	
2倍区	23.0	77.0	0	10.4	88.5	1.1	2.4
4倍区	20.5	79.5	0	13.3	84.1	2.6	2.7
6倍区	36.0	64.0	0	14.0	84.5	1.5	5.0

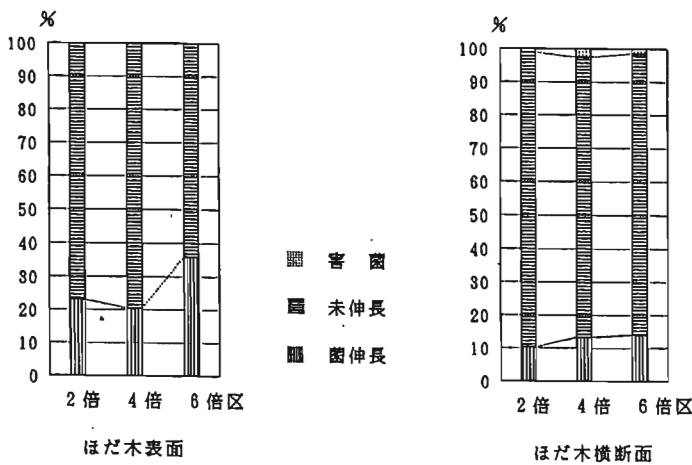


図-1 マイタケ原木栽培ほだ付率

表-2 マイタケP・P袋栽培活着袋数及び発生袋数

ほだ木形態	全袋数	活着袋数	発生袋数
原木 1本	10	9	3
" 2本	10	9	7
" 3本	10	10	9
半割 1本	10	10	3
4分割 2本	10	8	7

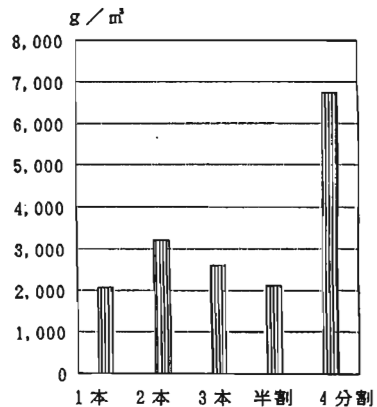


図-2 マイタケP・P袋栽培発生量